

「素敵な町」



言葉 わせたい。

楽しい文化を作りたい

いま、大きく変わろうとしている南国市。拠点都市として、産業、経済の活性化を支えるため、文化施設の充実が不可欠。人口定住を促すための魅力的なまちづくりが望まれています。人々の心が交わり、新たな文化が生まれる南国市。想像するだけで、ワクワクしてきます。

創造活動を行っているかたや、文化を享受し楽しんでいるかたがたは、南国市の文化環境をどう考えているのか、またこう、この動きをどう感じているのかを聞くとともに、関係機関の声にも触れてみました。

文化団体の関係者によれば、多くの市民が各分野で文化活動を行っており、全体的に水準の高い活動を行っているとのこと。

その中でも、県下でトップレベルの人たちがいて、独自の世界を作り出していると感じます。

また、南国市には高知医科大学、高知大学農学部をはじめ多くの高等教育機関があり、若いセンスや才能には恵まれています。文教都市としての可能性は大きい。

高知市の文化圏にのみ込まれ、経済活動と同様、文化エネルギーまでもが吸収されているのは、寂しい一言。

創作活動を行ってない人でも、クラシックやロックなどのファンや自宅の好きな人、また展覧会で名画を鑑賞したい人など、多くの市民が普段の生活の中で、芸術に接することの出来る施設を望んでいます。

また、舞台部門のものは、各公民館で発表していますが、収容人員に限られていますので、十分な発表の場のないのが実情です。

施設面でハンディキャップを感じている訳ですね。

「そうですね。近隣の町村でも施設的には南国市より充実しています。また、全ての文化的な催しものが高知市に集中しているのは、健全ではないと考えます。」

文推協として、新しい県民文化ホールの誘致の請願書を市長・議会に提出しています。

「芸術作品などの常設場所があれば、創造性への刺激になりますね。普段着で、いつも身近に芸術に親しんでいることが文化意識の向上につながります。そのためには、質の高い施設が是非とも必要です。文推協の最大のイベントである文化祭も、市民体育館を使っています。その間、スポーツ行事はストリップになっています。」

「芸術・芸能以外での効果については、ひとつには、市外から人が集まることで、新しい交流の輪が広がります。」

また、文推協が結成されたいきさつと同様、市民の意識を一つのものとして形成していく共通の場所として重要であると考えます。



いんたびゆう

南国市の文化活動の中心的団体である、南国市文化推進協議会（文推協） 会長の島村辰彦さん

「文推協にはどれだけの団体と人が所属していますか。」

「二十八団体、約七百五十人が所属しています。」

「一日ごろの活動はどのようにしていますか。」

「洋画や書道などは高知市で会場を借りて発表しています。」

「音楽が好きで、よく聴きに行きますが、駐車場もなく不便です。」

「ここだと千台くらいの駐車場が取れます。」

「本立に生まれた、ゆったりとした雰囲気の中でコンサートなどを楽しむことができます。音楽は世界共通語、南国市には多くの学校もあり、これからの未来を担う若者に夢を託すためにも、是非にと願っています。」

「これからの取り組みは。」

「私有地との境界の確定に時間がかかっているときいています。一日も早く地権者の同意が得られるよう協力していきたい。」

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

「吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん



いんたびゆう

吾岡山に新しい県民文化ホールを」と、誘致に積極的な吾岡山周辺環境整備推進会長の溝淵勇さん

王朝文化のかおり漂う



南国市はかつての「土佐のまほろば」。政治・経済はもとより、文化の中心地でもありました。

平安時代から中世までの非常にながい間、南国市には高度な芸能文化の花が咲いていたことに確実。

また、紀貫之ゆかりの地であり、文学に関心のある人にはロマンチックな土地でもあります。

毎年、紀氏御跡で行なわれる「土佐

日記門出のまつり」は関係者の努力で年々盛大になり、昨年は国府小学校の生徒による「土佐日記」の朗読が行われ、出席者を感動させました。

こうした文化的伝統への誇りが、いままも南国市民の文化的水準の高さを支えているといえるのではないのでしょうか。

近くには、まほろばの里整備事業も進行中。



絵でいっぱい

田島惇己さん・大埔

油絵のグループに属して... 会場がありません。喫茶店を借りたり、郵便局のホールを借りたりして発表しています。年に一回の発表会も高瀬画廊で行っていますが、それは市民との連帯性が失われます。また、市内にも力量の優れた創作をしている方がいますが、展示場がないため、意外と知られていません。文化会館構想検討委員会のメンバーでもあり、以前グループの作品展での花り上げを文化会館の建設に役立ててと寄付したこともあります。

待たれる新しい図書館

文化ホールの建設のほかに、施設の充実が求められているのが市立図書館。いまの図書館は、すでに書棚はいっぱい、スペースと構造上からこれ以上の蔵書は不可能。利用状況を見ると現在四万七千冊の蔵書があり、貸出し冊数も年間十数万冊を越え、市民一人当たり二冊の貸出しとなっています。「公立図書館の運営に関する望ましい基準案」では人口の二倍の貸出し冊数が

市民の声をひとつにして

行政の取り組みはどうなっているのでしょうか。市立文化会館建設については、教育委員会が窓口となって、委嘱した文化会館構想検討委員会と、議会の南国市立文化会館（市民会館）建設促進特別委員会（ともに吉村雅男委員長）との意見を聞きながら計画を立てていたため、新たな市民文化ホールという新たな構想に対応する組織づくりが間にあっていない状況。いまのところ、特別委員会では県民文化ホールの誘致についての答申をする権限を付託されていません。そこで、四月下旬に開かれた南国市立文化会館（市民会館）建設促進特別委員会では、県民文化ホールの誘致に取り組みなければという意見や、市民のための

望ましい姿とされておられ、小さい図書館の割には大健闘。これは昭和六十三年にスタートした移動図書館が果たした役割が大きい。対人口比四・一割、「望ましい基準案」の十五割にはまだまだ。スペースの狭さを解消したいところです。県民文化ホールの誘致に際して、なんらかの形で図書館の併設もとの声を聞きます。

施設を併設することの必要性を訴える意見などがありました。副県部構想実現の第一のハードルといえる県民文化ホールの誘致に、多くの市民は期待を寄せています。最後に市長の考えを聞きました。——地元の誘致に積極的な香岡山を有力候補地と考えています。造成に少し時間がかかりますが、農地を潰さなくて済みますし、日本セメントから譲渡された市有地であり、土地造成のみの財政負担ですみます。土地は市が提供し、県のシンボルとなるような芸術性の高い建物を県の主体で行うよう望みます。維持費なども県の負担で運営できれば、最善、市民の声を一つにして、県に働きかけていきます。

部活はたのし

熊田千景さん・東崎

中学校の音楽部の部長をしています。

南国市は音楽を楽しめるところが少なく、活気が感じられません。魅力が少ないところといった感じ。

高知県全体が離れ小島のようであらうで、友人ともよく話します。

ほかの県ではいろいろなイベントがあって楽しそう。コンサートホールがあって外国からも有名なミュージシャンがどんどん来るようになれば、魅力もでてくると思います。

そうならば、クラブ活動や発表会も活発になってくるのではないのでしょうか。



本は心のうるおい

中山輝久さん・市内に勤務

本が好きで図書館をよく利用します。月に十冊位は読みます。ジャンルにこだわりませんが、ジャンルの数も少ないとは思いませんね。利用できる時間と仕事の時間が重なっているため、昼休みの短時間に借りて来たいです。日曜日の午前中開いてほしいと思います。

表紙関係の図書は貸出し禁止が多いなか、南国市では借りることが出来ます。うれしいですね。高瀬本が各方面から寄贈されているのも感心させられます。これからは図書館を利用し続けていきたいと思っています。

伝統芸を楽しく

橋詰之夫さん・稲生

踊りのグループの世話役をしています。市内には愛好者も多く、文化祭などでも参加者の多い部門です。文化活動は心のもち方次第。施設は二の次ぎ、と言う人もいますが、舞踊は、照明や音響効果が発揮されて初めて舞台が映える総合芸術です。発表会などはほとんど高知市が大舞台、伝統芸能などですぐれた人が多くいるにもかかわらず、意外と知られていないのが残念です。

これからは高齢化社会、仕事以外に打ち込めるものがないと寂しいですね。

ミュージシャン

松下幸子さん・同豊町

クラブではサクソフォーンを担当、吹奏楽コンクールにも出場しました。

他に琴とピアノを習っています。母も一緒に習っていますが、発表会は場所がなく、ほとんどが高知市。練習の成果を地元の人たちに見てもらえないのは残念です。

南国市には学校もたくさんあります。アマチュア・バンドのライブコンサートなど身近に演奏活動が出来ると、若者の文化が感じられるような街になればと思います。将来は音楽系の学校に進むことを考えています。

いつも音楽を

比豫森正和さん・同豊高教諭

全体的に南国市の音楽環境は低調ですね。他の市では市民バンドを結成して積極的に活動しているところもあります。

同豊高校でも卒業生を中心に吹奏楽団を作ったのですが、練習場として市の施設に申し込んだところ、音響の関係で断られました。

地元の高校として、地域に根ざした音楽活動ができるよう練習場や定期演奏会の出来るホールが欲しいですね。そこでベートーベンの第九を市民が参加して演じることが出来れば素晴らしいことです。

心豊かなまちに

上村理恵さん・駅前町

人口に比べて文化施設が貧弱ですね。クラシックやジャズが好きで、よくコンサートに行きますが、市内で聴けることは稀です。

こども劇場に関わっています。施設不足から手作りですが、会場をセッティングしています。それなりに観客と一体感が持てる良さもありますが、低料金で借りることの出来る公共の施設が欲しいですね。

四歳の娘と週に一回は図書館を利用しますが、蔵書ももう少し多い方が、また、スペースももう少し広い方が落ち着いて読書できると思います。

